



赤石ひろ子 市議会LETTERS

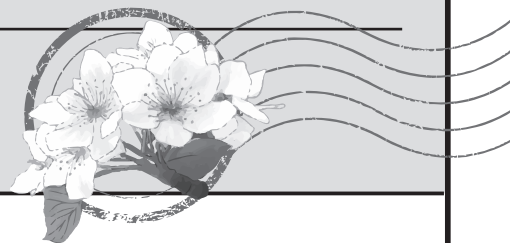
発行・連絡先 日本共産党市議会議員団
川崎市川崎区宮本町1 川崎市役所第2庁舎7階
TEL044-200-3360 FAX044-245-4140
登戸事務所TEL044-930-1885



facebook Twitter

www.akaishi-hiroko.jp/

赤石ひろ子の公式ブログ
QRコード



川崎市議会2020年第1回定例会

ゆたかな財政は市民の暮らし、福祉へ。 代表質問で新年度予算案を質しました

2月17日から開催の川崎市議会2020年第1回定例会。3月2日の代表質問で、日本共産党は宗田裕之団長が質問に立ちました。

冒頭にコロナウイルスの感染拡大について、国は専門家とともに科学的知見に基づき与党派を超え打開策に取り組みことを主張し、質問に入りました。

福田市長の政治姿勢に対しては、政令市トップの財政力を持ちながら、市民のための施策に予算を回さない冷たい市政を批判。減債基金を利用した「財政が厳しい」というごまかしを事実で暴き、施政方針で脱炭素社会実現を表明しながら、関連予算を減額した矛盾を追及しました。

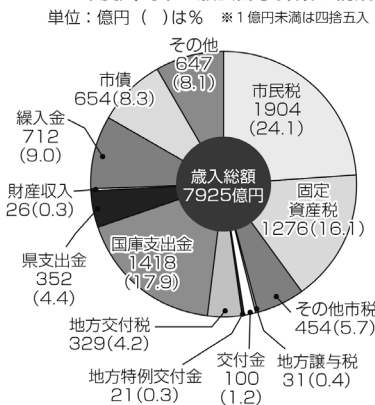
子育て支援では県内で最低水準の小児医療助成制度を病院で中学3年まで拡充すること、保育所の待機児童

解消の具体策などの目標の低さを追及。教育では少人数学級の実現、就学援助基準の引き上げなどを求めました。特別養護老人ホームの増設、中小企業支援、住宅リフォーム制度の創設も主張しました。

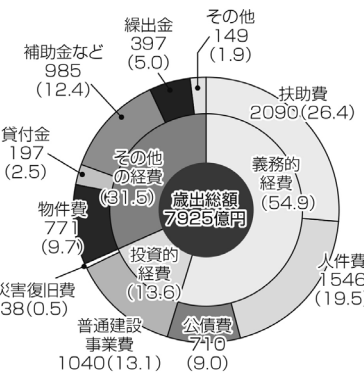
令和元年東日本台風では被害把握が不十分で、危機管理人員の拡充、内水氾濫ハザードマップの作製も急務です。また、羽田空港離発着新ルートにも言及。コンビナート上空を通過する新ルート、事故が起これば川崎市に甚大な被害が生じます。新ルート差し止めを迫りました。

市民生活関連は削りながら臨海部の大規模開発には莫大な予算をつぎ込む福田市政。公共事業では老朽化した橋の架け替えなども急務です。質問は市政の歪みを突き、具体的改善策を示しました。

2020年度川崎市一般会計予算案の構成



歳入は6年連続過去最大の7,925億円。個人市民税や固定資産税が市税収入を支えています



港湾部の大規模開発は増額。障がい者、高齢者予算は削減!

赤石ひろ子議員の

予算審査特別委員会 質問@3.11.

防災

多摩区で整備する 垂直避難器具の有効活用を

多摩区では、令和元年東日本台風の教訓を生かし、車いすの垂直避難に使う昇降器具を浸水想定地域の11校に整備します。設置校、スケジュールを問いました。今年度内に宿河原小学校、中野島小学校、下布田小学校、稲田中学校の4校。稲田小学校、登戸小学校、菅小学校、東菅小学校、東生田小学校、中野島中学校、菅中学校は次の出水時まで設置する計画です。昇降器具の周知、器具を用いた避難訓練の実施、さらには全避難所への設置を求めました。また、多摩区丘陵地の土砂災害警戒区域に対する防災対策も併せて求めました。

堰1、2丁目の水害対策を 早急に

令和元年東日本台風では堰1、2丁目で浸水被害が発生しました。水門の開閉操作、河川の水位、逆流の性格かつ迅速な状況把握が課題です。内水氾濫への対策も質しました。堰の浸水では、3号雨水幹線水路の開口部分か



堰1、2丁目の浸水被害は下水道からの逆流が原因。宇奈根排水樋管を畑野君枝衆議院議員、石田和子県議員とともに視察。



予算審査特別委員会で質問に立つ赤石議員。

ら泥水が噴出したことで被害が広がりました。この開口部分については12月議会でも質問し、市は「出水期までには対策を検討する」との答弁が一步前進。今年度内に多摩区役所道路公園センターが閉塞工事を実施することに。また、多摩川の状況を把握するために障害となる樹木の伐採も求めました。避難所が遠い、という声にこたえて、3階以上の民間集合住宅や商業施設と一時避難所とも避難所協定を働きかけることを提案しました。

障がい者福祉

視覚障がい者に利用しやすい図書館に

視覚障がい者の90パーセント近くが読み書きに困っていて、代筆・代読サービスの充実が求められています。川崎市には視覚障がい者情報文化センターが機能していますが、もっと身近な図書館でサービスを受けたいという要求があります。市立図書館で対面朗読サービスを提供していますが、サービス登録者は14人と視覚障がい者の1%未満。施設開放している学校図書室への拡大など、サービスの充実を求めました。また、膨大な点字図書、デイジーデータを有する全国的なデータベース「サピエ図書館」への加盟を促しました。

障がい者の短時間労働をもっと広げて

本市の障がい者手帳所持者は5万7千人。そのうち生産年齢人口に該当する18〜64歳の方は2万676人です。しかし就労者は3割にも届きません。中でも精神障がいや発達障がいの方々は、障がい者雇用の基準となる「週20時間以上の就労」が難しい場合もあります。川崎では週3、4時間から働ける「障がい者短時間雇用プロジェクト」があります。この制度を充

させ、障がい者の就労定着を図るため、スタッフの更なる増員を要求しました。

まちづくり

シェアサイクルで多摩区の観光資源を活性化

「必要なときだけに自転車を利用できる」シェアサイクル。川崎では昨年3月から導入され、多摩区では登戸・向ヶ丘遊園エリアで実証実験が開始されました。JR登戸駅、区役所、街区公園など22カ所にサイクルポートが設置されています。しかし利用者はまだ少ない。エコロジーな交通手段を積極的に進めることサイクルポートの広報、規模拡大を求めました。

また、シェアサイクルを普及させるには、自転車が安心安全に走行できるための道路整備も必要です。自転車専用道路や自転車走行指導帯などの整備も求めました。



小田急線登戸駅一向ヶ丘遊園駅の間に設置されたシェアサイクル。

市議団の視察で関西へ

2月4、5日と1泊2日で視察に行ってきました。今回は防災と福祉がテーマ。まずは大阪市危機管理室を訪ね、津波・水害時避難ビルの取り組みを学びました。平坦な地形の大阪市は東日本大震災を教訓に、垂直避難所を増やすことに力を注ぎ、公的施設から民間ビルまで、現在67カ所、118棟、約6万人が避難できる場所を確保しているそうです。門真市の「ゆめ伴プロジェクトin門真」は、認知症の方と市民が共に綿花や野菜を栽培する「ゆめ伴ファーム&サロン」や「ゆめ伴カフェ」を運営。茨木市の社会福祉法人「ぼぼんがぼん」では重度障がい者が24時間のヘルパー制度を使って自立生活をしている事例を、京都市の高齢者福祉施設西院では、認知症の方たちが作り出す生活雑貨ブランド「sitte」立ち上げのお話を聞きました。障がいや認知症があっても、いきいきと地域社会で暮らせる先進的な取り組みは、川崎市政にも大いに参考にしたいものです。



門真市の「ゆめ伴プロジェクト」のみなさんと記念撮影。

AREA TOPICS 登戸

登戸ペDESTリアンデッキに市民待望のベンチが実現

12月議会で赤石ひろ子議員が意見要望として求めた、JR登戸駅ペDESTリアンデッキへのベンチ設置。1月中旬、改札前に数個のスツール型ベンチが取り付けられました。ベンチは川崎駅と同タイプのもので可動式。人の流れや使い勝手を検証するための暫定的な設置ですが、毎日利用する人が見られます。登戸駅の1日の乗降客数はJR南武線、小田急線ともに約16万人。ロータリー脇に多目的トイレができたり、新年度予算では小田急線登戸駅のホームドア設置が盛り込まれるなど、多摩区のメインゲート、登戸駅の快適化が進んでいます。



設置後は、高齢者、小さな子ども連れ、若者。さまざまな人が利用する姿が見られます。

昨年、登戸の老舗日本料理店が多摩川べりに移転リニューアル。その屋上は「川風のガーデン」として市民に無料開放されています。今年は、多摩区新春のつどいほか、地元の新年会でたびたび訪れる機会があり、私も川風を体感させてもらおうと足を運びました。対岸の粕江と川崎を結ぶ小田急線の鉄橋を望み、多摩川を一望することができません。その日は、ランチを食べに来た女性たちや小さな赤ちゃん連れのママが、ウッドデッキでくつろいでいました。夏は花火にビアガーデン！などと想像するとワクワクしてきますが、いまは残念なことに令和元年東日本台風の爪痕がまだあちこちに残っています。登戸は幸い水害を免れましたが、流木や土砂の堆積を見ると心が沈みます。国土交通省は「多摩川緊急対策プロジェクト」を立ち上げ、河道掘削や樹木伐採、護岸強化などを計画しています。ぜひ、スピード感をもって取り組んでいただきたいと思います。この登戸周辺にも、すがすがしい緑豊かなリバービューが一日も早くよみがえることを願わずにはいられません。

(赤石ひろ子)

梨花百々 りんかひやくびやく ⑤

